

第2回滋賀県契約の在り方検討懇話会 概要

- 1 開催日時：令和2年（2020年）10月1日（木）15時00分～16時55分
- 2 開催場所：滋賀県大津合同庁舎7階 7A会議室
（大津市松本一丁目2-1）
- 3 出席委員：石井委員、高坂委員、辻委員、土山委員、中田委員、仁尾委員、廣川委員
- 4 議 題：
 - (1) 県の契約の在り方について
 - (2) その他
- 5 主な意見：
 - ・地域経済の活性化は、調達による副次的な効果として社会的価値の実現の中にまとめても問題ないが、特に重要な項目なので、意図的に特出しすることもよい。
 - ・分離発注が経済合理性、公正性に反していないか検証の上発注することが必要。
 - ・業者の社会性評価で、建設工事と関係が薄い項目があり、それをクリアしようとする、業者もコストもかかり、大変厳しい状況になってくる。
 - ・特に委託契約や指定管理は、公共のサービスとしての質をどう担保していくのかということが非常に大事で、賃金も含め働いている者が魅力を感じて、働き続けられる環境をどうつくるかという視点も必要。
 - ・県のビジョンの達成という視点が必要。
 - ・地域経済の活性化や社会的価値の実現を目指すことでコストが発生するが、それをどこまで認めるかが、全体のバランスをどう考えるかにつながる。
 - ・一定コストがかかることも地域経済の活性化や働く条件がよくなることで、結果的に返ってくるということを県民に理解してもらいながら進めるしかない。
 - ・地方創生の時代であり、県内企業の比率を何割以上にするという指針みたいなものも、受入れられやすい環境にあるのではないか。
 - ・どんな数値や事例が現れてくることを念頭に置いて、どう設計するかということ。

- 企業育成という意味で、グリーン購入や技術力などを強化する形で、地域経済の活性化や社会的価値の向上に結びつけば、滋賀県そのものが飛躍していく原動力になる。
- 琵琶湖や自然環境のことを考えないといけないということは、個々の事業者にとっては、取組を始める苦勞が多いと思うが、強力に進めていくべき項目の一つと感じる。
- 最低制限価格、低入札調査基準額を狙って入札するようになることから、それが予定価格により近づくといいものがつくれると考える。
- 予算の範囲内で契約を結ばないといけないことが多いと思う。品質の確保という意識が庁内全体で共有化され、当然そうだと財政サイドも見てくれたらいい。
- 検査課で検査した総合的なレビューが重要ではないか。年単位などでレビューし、課題を抽出していくことを繰り返すしかない。
- 賃金の話が、品質の確保と社会的価値の実現両方に書かれていて、両方にあって相互に関係する問題としてもいいが、どちらかに書いた方がすっきりするのではないか。
- 地域経済の活性化や社会的価値の実現につながる入札のマニュアルなどが整備されると、より良いのではないか。
- どういうアウトプットやアウトカムを可視化させるかっていうことを、難しいがしないといけない。価格を1割上乘せしても県内事業者に発注したほうが経済効果があるということが一定担保出来たら、1割高くてもいいという言い方ができる。県内にこれぐらい落ちると経済的にこういう効果がある、グリーン購入がこれだけされるところという効果があるということの可視化を、何とかできないか。
- 評価するには、一定の指標を持って浅く見ることと個別具体的に深く見ること、内部、外部を組み合わせる仕組みを作っていくことが大事ではないか。
- 可視化というやり方は最初からパーフェクトには出来ないけれども、そういうことを意識してやって、意見をいただきながら、完成形に近づけていくというのが、一つのやり方かと思う。